

どカイ日和ナリト云ト云々是五ニ旅人ノ多ク悦ブ也今式ニ云大ぶくといふ事古格ありといふ
 ともいむべし服といふ文字なれば作になりてよろしく松崎蘭如といふ俳人有大い
 孫の愁ありて服を受る事三度と云々雑談抄に云六十二代村上帝六波羅密寺ノ觀音ヲ信敬シ
 玉フ或時御惱玉ヘリ然レバ醫藥驗上ノ服御スルヲ以テ王服ト稱シテ供スル所ノ茶ヲ服シ玉テ
 テ御惱平愈シヤヘリ然レバ醫藥驗上ノ服御スルヲ以テ王服ト稱シテ供スル所ノ茶ヲ服シ玉テ
 家ノ時茶道盛ニ起ニ出云々又足利

〔守貞漫稿 二十六〕福茶 京坂ニテハ元旦先若水ヲ以テ手水ヲツカヒ次ニ大福ト號ケテ烹花ノ

茶ニ梅干ト昆布一片ヲ入テ飲之主人ヨリ以下各飲之唯今朝一回ノミ蓋茶ヲ大服ニ汲ムヲ祝
 テ服福音近キヲ以テ行之ナラン梅ハ甲州梅ト云小顆也 江戸ニテハオ、ブクト云ズ福茶ト

云元旦二日三日六日七日十一日十五六日等數回飲之或ハ三ヶ日飲之家モアリ元日ノミト云

ニ非ズ然モ多クハ夜食前ニ烹之也甲州梅干大豆山菽以上三味ヲ二三粒ツ釜中ニ投ジ喰之
 昆布ハ用ヒズ蓋近世乾物店ニテ右三味ヲ塵紙ニ包ミ四錢ツニ此時賣之其便察スベシ

禁忌

〔日次紀事 正月〕凡新年萬事稱吉故堂上方及地下人變其詞而祝之或衰日曰得日疾病曰歡樂或稱
 樂臥謂重儀起謂起稻稻與寢倭語相同故也倒謂轉儀燒物曰保古羅加須物之奴留々曰潤涕泣曰
 無都加留亦農夫耕田有宜水宜旱其厭旱之土民飲酒曰比多須厭水之土民曰保須

〔翰林胡蘆集〕鹿苑院殿百年忌陞座 略 中

散說 略 中

又與廣照常光二師道契不淺嘉慶二年春正月九日請道照於三條官第講金剛經至十九日講了山
 野謂方今公武以正月爲嘉節忌僧徒往來台靈獨異是可怪矣考之於唐朝則貞觀元年正月命京城
 僧三七日行道齋供王公行香者在焉

〔秋齋閑語〕年の始などは佛事をいむ事堂上の風なりやまひをもことばに出さず所勞といふ
 べきを歡樂といふ事に成たり御門跡方は出家にてましますに其風うつりて御門主より外の